

表彰

日本油化学会功績賞

山岡正和氏
(元 産業技術総合研究所)

山岡正和氏は1952年東京生まれ。1978年に東京大学大学院工学系研究科修士課程(妹尾学先生の研究室)を修了後、工業技術院東京工業試験所に入所されました。所属は天然有機化学部第1課で、部長は橋本哲太郎氏(元日本油化学会会長)、課長は加藤秋男氏でした。因みに、天然有機化学部第1課は、スクアレンの発見で世界的に著名な油脂化学者、辻本満丸博士の系譜に繋がる研究室であり、辻本博士の残された88冊すべての実験ノートと120を超える標本類が大切に保管されていました。これらは2017年に日本化学会化学遺産委員会により第8回日本化学遺産5件の内の1件に認定されています。また、東京工業試験所には石上裕氏(日本油化学会フェロー)や鈴木修氏ら日本油化学会に所属して活躍している研究者が数多く在籍していました。そのようなことから、山岡氏は入所後ただちに日本油化学会に入会するとともに、たびたび日本油化学会の委員会の仕事を依頼されました。最終的には自身が保管する委員委嘱状だけで50通を超える活動歴になっていました。その後、組織改編に伴い、所属する研究所は化学技術研究所、生命工学工業技術研究所、産業技術総合研究所へと変遷していきました。山岡氏はこの間、1991年に工学博士号(東京大学)を授与され、研究グループ長などを歴任されました。また、2016年以来現在まで公益財団法人日本食品油脂検査協会の非常勤理事を勤めておられます。しかし、2018年の産業技術総合研究所退職以降、ご母堂方の介護を家族で行うため、介護に合わせた勤務が可能なものを除き公的活動から退かれました。

山岡氏の日本油化学会での委員会活動は多岐に渡りまします。例えば、第35回油化学討論会研究発表会(つくばでの2回目の年会。1996年につくばの工業技術院の会議室や講堂で開催)では、佐藤征実行委員長の下で実行委員会事務局長を山岡氏が務めておられます。しかし、山岡氏の日本油化学会で特筆すべき委員会活動は規格試験法委員会に関わるものです。中でも油化学分野の共通基盤とも言うべき基準油脂分析試験法の整備に関わる諸々の貢献が注目されます。今回の日本油化学会功績賞

は山岡氏のそれらの貢献に対して授与されました。受賞理由の概要は以下の通りです。

山岡氏は日本油化学会理事、規格試験法委員長(2003年~2006年及び2015年~2017年)として、また、規格試験法副委員長(2001年及び2007年~2014年)、規格試験法委員(1995年~1996年及び1998年~1999年)として、基準油脂分析試験法の制定や普及に貢献されました。

(1) 基準油脂分析試験法1996年版のトコフェロール分析法(合同実験には1987年頃参加)の基準法化に委員として、また、基準油脂分析試験法2003年版制定に委員長として貢献されました。なお、1997年~1998年に主務を務めた薬品安全性調査小委員会の報告書が試験法改訂に繋がり2003年版刊行に活かされました。次に、基準油脂分析試験法2013年版制定に副委員長として貢献されました。ここでは、基準油脂分析試験法の分類・構成に関わる基本制度の2003年版からの大幅な改訂に際し、従来の規格試験法委員会の内規に内在した課題の解決に尽力して、基準油脂分析試験法の全体構成の再構築に貢献されました。さらには、基準油脂分析試験法における特許権の取り扱いを初めて整備されました。また、基準油脂分析試験法2013年増補・改訂版の制定に委員長として貢献されました。

(2) 英文試験法(基準油脂分析試験法の抜粋の英語版)を初めて作成してCD版で公開(2009年、2013年、2015年及び2018年)することにより、基準油脂分析試験法の国際化に貢献されました。

ところで、これらの委員会活動には様々な場面ごとに関係者の知恵と努力が詰まっている、と山岡氏は考えておられ、それをどのようにして的確にかつ広く伝えられるかが課題でした。そこで、オレオサイエンス編集委員会と規格試験法委員長仲川清隆先生とに機会をいただき、「油化学分野における共通基盤の整備と最適化に向けた活動の記録」を執筆されることになり、2023年1月からオレオサイエンス誌の「会員のひろば」に連載中です。